

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38020	
事業名	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成費						
評価担当課	所属名	ス)スポーツ部 企画事業課					
	課長名	深井 貴広	担当者名	矢澤、松島、若松	電話番号	211-3044	
施策名	主	雪と共存した暮らしの推進					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ● その他					
	目的	短期	ウインタースポーツの裾野拡大と競技力向上を図る。				
		長期	優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に飛ばたくトップアスリートの育成を図る。				
	取組内容	①ウインタースポーツの体験者増を図る取組:2競技を体験するウインタースポーツ教室を3コース開設及び夏場にウインタースポーツを体験できる機会(WS塾 in Summer)の提供。 ②ウインタースポーツの競技者増を図る取組:ウインタースポーツジュニアチームと連携した体験会開催やチームの広報支援を行う。 ③タレント発掘・育成事業:ジュニアアスリートの発掘・育成事業 ④カーリング普及促進事業:レベル別のカーリングスクールを実施					
実施結果	①体験者増を増やす取組:カーリング体験会と冬の体験会(6種目)開催により、560人が参加。競技者増に向けた取組:広報誌やWEBを活用した少年団の広報を実施。スケートの簡易検定であるスケートチャレンジ検定を行い、308人が参加。 ②冬季競技5種目・夏季競技3種目で育成事業を実施。また、体力測定会等を行い、15人の子どもたちを発掘プロジェクト生として選考。 ③レベル別カーリングスクールでは2,503名、子ども向け指導プログラムでは761名が参加。						
事業実施における工夫点	体験会参加者が継続的に競技に取り組むきっかけとなるよう、競技団体と連携し、体験会の中に競技団体の広報を組み込んだ。						
対象者	札幌市内小・中学生、高校生等			開始	令和2年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等							
他都市の状況	北海道:北海道タレントアスリート発掘・育成事業						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	17,996	29,000	27,926	32,000	
うち特定財源	12,451	19,771	16,642	20,771	
人工	1.3	1.4	1.4	1.2	
人件費	9,360	10,080	10,080	8,640	
計(事業費+人件費)	27,356	39,080	38,006	40,640	
事業費の内訳	令和3年度決算	決算額27,926千円 ①ウインタースポーツ塾:委託料8,130千円、チラシ作成費1,086千円、その他525千円 ②タレント発掘・育成事業:補助金13,000千円 ③カーリング普及促進:委託費4,620千円 ④ウインタースポーツ体験会:負担金565千円			
	令和4年度予算	予算額32,000千円 ①ウインタースポーツ塾:委託料9,000千円、施設使用料1,800千円、チラシ作成費2,600千円、その他529千円 ②タレント発掘・育成事業:補助金13,000千円 ③カーリング普及促進:委託費4,071千円 ④ウインタースポーツ体験会:委託料1,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	ウインタースポーツ塾事業参加児童数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	0	500	560	1000	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	ナショナルチーム入りを果たすアスリート数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	4	5	8	9	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	①コロナの影響により夏の体験会を中止したが、秋と冬にはコロナ対策を行い体験会を実施することができたことにより、目的は達成されたものと判断できる。また、スケートチャレンジ検定や広報紙、Webを活用し、競技の魅力や活動団体の紹介することができた。 ②目標数を越える延べ8人の選手がナショナルチーム入りを果たした。 ③コロナの影響により、施設休館に伴い教室が開催できない時期もあったが、開催期間の応募者数は定数を上回っており、目的は達成されたと判断できる。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	①コロナの影響により夏の体験会は中止したが、過去実績を鑑みると会場及び指導者の確保の観点から、定員の増加等は難しく、事業内容及び事業規模は適切であると考えられる。 ②事業内容等について、対象の競技団体と綿密な協議調整を行う必要があるため、現在の対象種目数(冬季5種目、夏季3種目)は適切である。 ③施設が市内に一つのみであり、カーリング協会確保できる指導者も限りがあるため、現在の規模が適切であると考えられる。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	①夏の体験会は直営で実施し、指導者との調整等業務量の多い冬の体験会は業務委託で実施するなど、効率的かつ適切な手法で事業を実施することができている。 ②競技団体を統括している札幌市スポーツ協会を事務局とすることで、各競技団体との円滑な協議調整が行われており、実施手法は適切である。 ③利用者と施設設備の安全管理及び利用者の競技力向上のため、施設及び協議に関する専門知識を有しているカーリング協会に委託しており、実施手法は適切である。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	①アンケート結果では、参加者から大変好評をいただいている。また、応募者数から見ても本事業に対する関心の高さがうかがえ、対象者の満足度は非常に高くなっている。 ②オリンピックを始めとする実績ある指導者により、選手のニーズに合わせた効果的な指導が実施できている。 ③参加者の技術や経験に対し、初級から上級といったレベル別にに応じた指導プログラム及び実施計画を立てて指導しており、幅広い競技者のニーズに込えている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	ウインタースポーツ塾事業では依然として高倍率が続いており、多くの子どもたちにウインタースポーツを体験させるためにも倍率を下げるのが課題となっている。ウインタースポーツ競技者数のさらなる増加につながるため、ウインタースポーツ競技団体や少年団との連携をより強め、継続的な競技者数増加につながるような事業展開を図って行く。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	応募人数の多さと参加者の満足度から、ウインタースポーツの裾野拡大事業として十分に評価できる。また、目標数を越える選手がナショナルチーム入りを果たすなど、事業の成果が十分に出ていると考えている。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 競技団体と連携を図り、継続的な競技者の増加に向けた事業を計画する。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 新規事業として、雪印メグミルク株式会社からの寄付金を利用した、ウインタースポーツ体験会を実施予定。		見直し効果額	0 千円